



# グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2016 Vol.17, No.2

## 「日・東アジア対話」開催さる 複合リスクを如何に乗り越えるか



グローバル・フォーラム (GFJ) は、さる12月10日にザ・プリンスパークタワー東京で日・東アジア対話「東アジア地域協力の新地平」(写真)を開催した。シンガポール国立大学、インドネシア大学および日本国際フォーラムとの4者共催で実施され、日本側64名のほか、ASEAN10カ国、韓国等から計22名の専門家が出席した。

とくに注目された発言は、次の通り。

### 東アジアの複合リスク

まず、**チャンダリ・ニイク・ブノン**ペン王立大学国際研究学部長より、「これまで戦争、紛争、自然災害といった伝統的リスクと食糧難、疫病、雇用といった非伝統的リスクが、区別されることなく、いずれも同じリスクとして論じられてきたが、グローバリゼーションが進む中で、両者は境界線を超えて、連鎖反応する傾向を強めつつあり、今後は、新たなリスク管理のアプローチが必要になるだろう」との指摘があった。

これに対し、**伊藤剛**GFJ有識者世話人(明治大学教授)より「中国の台頭、災害、少子化などは、40年以上も前から指摘されてきた問題だが、それにすら十分対応できていないのが現状である。さしあたり予測可能なリスクと、予測不可能なリスクに分けることで、

前者については、真正面から対策を立て、後者については、むしろ社会の柔軟性や即応性を構築すべきである。リスクをいかに削減し、管理していくということが、今後の課題であるが、そのためには、国家間の協力が必要であるということはあるが、その前提として、東アジアにおける国際関係の透明性を高める必要がある。その鍵を握るのは中国だ」との発言があった。

### 東アジアの危機管理

**エヴィ・フィトリアニ**・インドネシア大学社会政治学部国際関係学科長より「安全保障と経済リスクは一国で対応できるものではないが、ASEAN、ASEAN+3、ARF(ASEAN地域フォーラム)といった既存の地域協力枠組みは、参加国の間の問題認識や保有国力に差異が大きく、また信頼関係が欠如しているため、十分な役割を果たすことができない。まずは地域各国が自己中心の姿勢を改め、『隣国が安

全でなければ、自国も安全ではない』との意識を高めることが重要だ。インドネシアの経験からいえば、紛争解決が叶わない中でも、協力関係を結ぶことはできる。南シナ海あるいは東シナ海においても、紛争国間で協力するプロジェクトを実施し、信頼関係を醸成することは、可能だ」との問題提起があった。

これに対し、**添谷芳秀**GFJ有識者メンバー(慶應義塾大学教授)より「本日の対話では、東アジアの様々なリスクに関する地域レベルでのマネジメントについて、重要なアイデアが出されたが、いずれも異論を挟む余地はない。次の課題は、やはりresponsibility to implementということとなる。日本の立場は間違いなく、ASEAN centralityを受け入れて、協力していくものであるが、日本はこれまでも対等なインサイダーとしてASEANの各種プロセスに関与してきており、日・ASEAN関係の重要性というのはまさにその点にある」との発言があった。

## 世話人会・拡大世話人会開催さる

新年恒例の第26回世話人会(朝食会)が1月15日に都内のホテルで開催(写真)され、大河原良雄相談役、伊藤憲一代表世話人、渡辺繭常任世話人に加え、経済人世話人の豊田章一郎、茂木友三郎、国会議員世話人の谷垣禎一、小池百合子、柿沢未途、浅尾慶一郎、有識者世話人の伊藤剛、島田晴雄、六鹿茂夫の世話人全員が顔を揃えた。なお、この世話人会は、第12回拡大世話人会を兼ねて開催され、石川洋鹿島建設専務、矢口敏和グローブシップ社長の

の両経済人メンバーも出席した。

当日は、2015年度の「活動報告案」、**「収支決算案」**、2016年度の「活動計画案」、「収支予算案」などが審議され、いずれも満場一致で承認された。



## 議論百出から

グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上のe-論壇「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

### デュポンよ、お前もか？

大学教員 真田 幸光

私は、かねて日本企業のあり方について「規模の経済性ではなく、製品やサービスの質を追うべきである」と主張してきました。「わが社しか提供できない製品を開発し、それを一番高く評価してくれる顧客に売る」というあり方こそが好ましい」と考えてきました。

残念ながら、日本にはそのような企業は無いように思われますが、世界的には「大量、多品種、高品質で、かつ高利潤を獲得できる企業」として米国のデュポン社があります。デュポンはロックフェラーやメロンと並ぶ米国三大財閥の一つですが、「安全、健康、環境、企業倫理」などを企業理念として発展してきました。「アポロ計画」

にも初期段階から参画し、新素材の開発などで実績を挙げてきました。

ところが、です。私が尊敬してきたこのデュポンも、ここに来て、米国総合化学会社トップのダウ・ケミカルと統合して、ドイツのBASFを上回る世界最大の総合化学会社を作ろうとしています。即ち、デュポンもまた、規模の経済性を追う方向に舵を切ったという事です。

驕る平家は久しからず、さすがのデュポンと雖も、規模の経済性を追い求め過ぎて、経営の理想からは転落してしまっただけです。引き続き、デュポンの行く末をフォローしたいと思います。

(2016年1月26日付投稿)

### 最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- 2/12 「日本のEEZを守るために」(佐藤正久)
- 2/10 「進歩主義者(プログレシブ)と市場の失敗」(池尾愛子)
- 1/26 「ロールス・ロイス社国有化をめぐる国家と軍事産業の関係」(河村洋)
- 1/21 「メルケル首相の誤算：コンセンサスなき移民・難民政策の混乱」(倉西雅子)
- 12/21 「サーティフィケーションへの懸念」(緒方林太郎)
- 12/7 「『沖縄・辺野古古代執行訴訟』の本質」(加藤成一)

## GFJ活動日誌 (12-2月)

- 12月1日、2月1日 『GFJ-E-Letter』 補佐人、野一色守補佐人他5名)
- 12月10日 日・東アジア対話「東アジア地域協力の新地平：複合リスクを如何に乗り越えるか」(ヒクマハント・ジュワナ・インドネシア大学教授、伊藤剛GFJ有識者世話人他84名、東京にて)
- 12月22日 第22回補佐人会(仲野寿人 補佐人、野一色守補佐人他5名)
- 1月1日 『メルマガ・グローバル・フォーラム』
- 1月15日 第26回世話人会・第12回拡大世話人会(豊田章一郎経済人世話人他19名)
- 2月1日 第120回外交円卓懇談会(呂小慶氏他25名)

## 補佐人会開催さる

12月22日に第22回補佐人会が開催され、豊田章一郎、茂木友三郎各経済人世話人によって指名された野一色守トヨタ自動車課長、仲野寿人キックマン部長の両補佐人によって、当フォーラムの2015年度収支決算監査が行われ、「適正である」と認められた。

## 日中関係の現状

2月1日、呂小慶中国中日関係史研究会理事長(写真中央)は、当フォーラム等主催の第120回外交円卓懇談会において、「日中関係の現状をどうみるか」と題して、次のように述べた。

21世紀に入ってからの中日関係は、5年毎に区切って見ると、よく見える。



第1段階は小泉政権時代の5年間だ。靖国神社問題のため、首脳間交流が完全に途絶した。第2段階は安倍首相と温家宝首相の相互訪問でスタートし、「戦略的互惠関係」を踏まえた「雪解け」を期待させたが、つづく第3段階で中国漁船と日本巡視船の衝突問題があり、「政冷経冷」の最悪の事態となった。第4段階を迎えるこれからの中日関係は、従来の歴史認識問題や領土問題に加え、台湾問題も加わって、問題を複雑化させかねず、危惧している。

### ■新規就任メンバーの紹介

(12-2月分、五十音順)

#### 【国会議員メンバー】

城内実

#### 【有識者メンバー】

飯田敬輔、稲田十一、加茂具樹、佐橋亮、鶴岡路人、中西寛、渡邊啓貴



グローバル・フォーラム会報  
2016年春季号  
(第17巻 第2号 通巻第66号)

発行日 2016年4月1日  
発行人 伊藤 憲一  
編集人 高畑 洋平

発行所 グローバル・フォーラム  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301  
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp  
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/